



# すすずかけ

学校便り 12月号-2  
令和元年 12月 25日  
掛川市立第二小学校

教育目標 『夢に向かって 自分を磨く子』 重点目標 『やさしく伝え合おう 進んでやろう』

## 覚悟が子どもを成長させる ～5年生 自然教室～

『一致団結して自分たちで成功させよう』を合言葉に、5年生が2日間の自然教室に臨みました。初めて家から離れて一晩過ごす子どもも多く、心細いとおつぶやく子もいましたが、友達の力と自然の力に背中を押され、たくましい顔へと変身を遂げていきました。5年生一人一人の覚悟が大きな成長につながりました。

「自分たちで」が表れた場面が数多くありました。

- ・10分前に準備 OK、やる気満々の出発式
- ・「大丈夫だよ、ここに足を置いて!」「荷物持とうか!」  
山頂登山での仲間への思いやりのある声かけ
- ・繰り返すごとに高まるルーティーン      ・次第に大きくなったあいさつの声



観音山少年自然の家「沢登り」

☆ 私は心配な時に、班のみんなと声を掛け合いながら助け合うことができました。一人の力で出来ない事も班やクラスのみんなでは達成できるから、これからもみんなと力を合わせて行動していきたいです。ナイトウオークラリーでは、恐かった時に班のみんながふわふわ言葉を言ってくれて嬉しかったです。一人じゃなくて仲間がいることがすごく嬉しかったです。      5年 水月さん

☆ ナイトウオークラリーは暗くて恐かったけど、みんなが声を掛けてくれて楽しかったです。仲間と一緒に歩いたり、話したりしたから私もがんばることができました。仲間と一緒に挑戦することが大切ってわかりました。      5年 蓮未さん

## 子どもの可能性を伸ばす「共感力＝相手の気持ちに寄り添う力」

5年生の子どもたちが自然教室で実践した「相手がどんな気持ちでいるのか理解してその気持ちに寄り添うこと」はまさに「共感力」です。共感力は、「優しさ」や「思いやりの心」を育てます。相手の思いを自分の事のように感じる事により、相手を助けたいという気持ちが「優しさ」や「思いやり」に育っていくのです。また、共感力からは、子どもが成長するとともに「相手が嫌がることをしない」という気持ちも生まれてきます。共感力が低いと、傷つけられた時どんなに苦しい思いをするか理解できないのです。共感力が育ってくると、学校でも、スポーツの世界でも、研究チームでも、会社のプロジェクトでも、それぞれの考えや価値観、気持ちを大切に、本当の仲間を得て、共にがんばることができるのです。年末年始は家族との時間も増えることでしょう。忙しい時期ですが、1年を振り返り家族同士でお互いの労をねぎらう姿をお子さんに見せてください。私も成人した我が子に見せようと思います。遅ればせながらですが、まだ間に合うことを信じて。

(参考: 瀧 靖之著「こんなカンタンなことで子どもの可能性はぐんぐん伸びる」) 文責: 校長 岡本 敦子

1年間、様々な場面で御支援くださりありがとうございました。よいお年をお迎えください。

## PTAバザーへの御協力ありがとうございました。

11月28日(木)に、PTA主催のバザーを行いました。バザー一品を提供して下さった方、回収・値札貼りなどの準備をして下さった役員さん、バザー一品を購入して下さった保護者・地域の皆様、本当にありがとうございました。本年度の売り上げは、41,195円になりました。この大切なお金は、古紙回収の収益金と共に、学校図書館の本の購入にあてたいと思います。年末の大掃除で出た古紙は、是非学校のリサイクルボックスへお願いします！

## 長縄大会に向けた練習が本格的に始まりました。

1月17日(金)長縄大会に向けた練習が本格的に始まりました。1年生は、跳ぶ時間、順番や場所等、本番用のタイマーなども使用し本格的に練習しています。子どもたちも自然に本気モードになり、友だちを応援する心地よい声が体育館に響き渡りました。12月23日の練習では、1チーム100回を超える記録が飛び出し、子どもたちから喜びの歓声が上がりました。



## 特別支援教育だより 8 「習慣を身に付けるために」

特別支援教育コーディネーター 松浦 崇

私たちはいろいろな習慣を身に付けて、日常生活を送っています。子どもたちもそれぞれの家庭や学校で習慣を身に付けてきています。自然と身に付けた習慣もあれば、少しの働きかけで身に付けた習慣もあると思います。そして、なかなか身に付かない習慣もあるのではないのでしょうか。「使った物を片付ける習慣を身に付けてほしい」「靴を揃える習慣を身に付けてほしい」「脱いだ物を脱ぎっぱなしにしないで、洗濯かごや洗濯機に入れる習慣を身に付けてほしい」「明日の予定をそろえる習慣を身に付けてほしい」「自分から宿題をする習慣を身に付けてほしい」等々。

なかなか身に付かない習慣をどう身に付けさせるか、

「ちゃんとやりなさいよ。」と本人の自覚を促すだけでは難しいように思います。その行動がしやすいように環境を整えたり、その行動を促すための視覚的な支援や言葉かけをしたり、その行動をやり始めたりやり終えたときに言葉かけをしたり。一緒にやったり、途中まで一緒に

やったり。終わったときはごほうびを用意したり。ちょっとでも自分からその行動をしようとしたときを見逃さずほめたり。そして、支援の意識をもち続けること。子どもに身に付けさせたい行動を習慣化するには、大人の側の支援の習慣化が大事なんだろうと思います。

